

令和5年度 第1回八尾市芸術文化振興審議会

日 時：令和5年10月16日（月） 午後6時～午後8時
開催場所：八尾市商工会議所3階 多目的室・セミナールーム
委 員：藤野（会長）、木ノ下（副会長）、緒方、松井、大久保、鈴木、高安、
辻田、中尾、萩原、葭仲 ※敬称略
事務局：新堂、式、出水、古川、川下、川井（文化・スポーツ振興課）
北芝（文化振興事業団）
傍 聴 者：0名

1. 開会

事務局より配付資料の確認。

2. 委員委嘱

事務局より委嘱状について説明。
事務局より委員、事務局の紹介。
魅力創造部長より挨拶。

3. 会長・副会長の選出

事務局一任として、藤野会長、木ノ下副会長を選出。

4. 審議

これより議事の進行を藤野会長に依頼する。

会 長○八尾の芸術文化の振興について、それぞれの立場より、広い視野で八尾市を客観的に捉えていただき、活発な意見交換により審議を依頼する。
また本日の審議会について、委員総数16名の過半数の方にご出席頂いており、八尾市芸術文化振興審議会規則第6条第2項の規定により、会議が成立していることを報告。

事務局より、資料2-1及び資料2-2の説明。

・会議の公開に関する指針3、4により、審議会等の会議は原則公開。
・会議録の各発言に対する委員の氏名は、会長、副会長、その他の委員の皆様についてはアルファベットでA委員、B委員等とし、内容は概要とする。

会 長○会議の公開について、ご意見、ご質問はないか。なければ原則公開とする。

案件（1）令和4年度 数値指標による定量評価について

事務局及び事業団より資料3令和4年度 数値指標による定量評価について説明。

事務局●審議会の役割について（基本計画29頁参照）

・推進会議では、基本計画で規定した、リーディングプロジェクト等、コモンズとして実施する事業の推進に取り組んでいる。
・一方、審議会では、基本計画の進捗状況について、定量評価・定性評価等により

調査及び審議を行っていただく。また、推進会議からの取り組み状況の報告を受け、それに対する審議・助言を行っていただく。

・審議会は年2回開催し、数値指標による定量評価や推進会議での取り組み状況の評価により、計画の進捗管理を行うとともに、次年度以降に向けた提言などを行っていただく。(基本計画31頁参照)

●八尾市芸術文化推進基本計画 数値指標による定量評価(基本計画31頁参照)

・「八尾市第6次総合計画」の実施計画で定める施策評価で定められた施策指標について、毎年度数値の状況を確認し、評価を実施することとする。

●文化会館の大ホール及び小ホールの稼働率

・大ホール、小ホールの稼働率は、事業の入場者数などにも関わりがあるが、八尾市芸術文化推進基本計画では施策指標とはしていないため、参考指標としている。

・基準値より6.2ポイント減少しているが、令和3年度から令和4年7月まで改修工事を行っていたうえ、新型コロナウイルス感染症の影響もあり稼働率が減少した。

●日常生活において音楽、映画、演劇、美術などの芸術文化に親しんで心の豊かさを感じる時がある市民の割合

・基準値より2.4ポイント減少し未達成。

・新型コロナウイルス感染症の影響により各種公演やイベントの開催数の自粛が続いていたため、芸術文化に親しむ機会も減少したと考えられる。

事業団より令和4年度の事業実績について説明。

・文化会館管理者が実施する事業の入場者数

・八尾らしさや魅力を活かした事業の数

・中学生以下対象の芸術文化に関するイベント参加者数

・まちのにぎわい拠点としての機能の向上

○事業団は拠点施設である文化会館を運営している。指定管理業務の中でできる限り年齢層や、地域性も勘案し、より多くの方々に利用していただこうと試行錯誤した結果となっている。

74事業447回という回数は通常1年間かけて行う事業数であるが、令和4年度は4月から7月まで大規模改修による臨時休館だったため、実質8か月間でこの事業数・実施回数を行った。参加者数も通常2万8000人程度であるが、3万3000人に上り、リニューアルオープンとして規模・内容を拡大して努めた結果が現れた。参加者数の平均値は通常2万人前後であり、3万人をこえるのは特別なこと。今後の参加者数など結果数値は、依然新型コロナウイルス感染症の影響もあることから元に戻ると予測される。また74事業の実施回数について、一般財団法人地域創造の調査によれば、195館の回答結果のもと、ホールが平均的に実施する事業数は1年間で18.1事業、人口20万人以上の施設に絞ると20事業、21事業以上は37.4%であり、われわれ文化振興事業団は74事業と突出している。

最後に「プリズム・アート&シアター・プロジェクト」について、日頃よりいろいろな方々に来場していただけるよう工夫しているが、リニューアルオープンに合わせて立ち上げた結果、今まで巡り合うことができなかった小規模な活動をされている方々からも応募があり、当該事業だけで、約6000名の方々と出会え、通常の参加者数を押し上げた。

会長○プリズムホールが全国的にも卓越した事業展開をしていることが伺えた。買取自主公演ではなく、手間暇かけた独自の事業を数多く実施していることは誇るべきことだ。この結果について、私の分析では、正規雇用の専門人材が豊富であること、ジェンダーバランスが均衡していること、年齢構成も比較的均一であることが挙げられる。

近年、開館当時の採用者が定年を迎え再雇用した結果年齢構成がアンバランスになっている課題がよく聞かれるが、文化振興事業団はバランスが取れている。日本の70%ほどが指定管理者制度を採用しているが、公設置で文化振興財団を持っていない場合には、民間の事業者が指定管理を行っており、素晴らしい活動に取り組む事例もあるが、一般的に見みると、行政の基本計画に則さずに事業実施しているケースが多い。全国展開できるような民間事業者であれば、隣接する自治体の取り組みを安易な発想で取り込むところが多いため、オリジナリティーに欠ける事象が見受けられる。しかし文化振興事業団は八尾市芸術文化基本計画に則った運営をしており、事業評価も上がっている。さらに、それ以外の自由な発想で生まれた事業展開をしているところが大きな特徴である。

また八尾市はやおうえるかむコモンズ推進会議を立ち上げ、まちなかへ展開するような文化振興の活動に取り組んでいる。文化振興事業団とやおうえるかむコモンズ推進会議の2つのエンジンがある。この2つがうまく絡み合っ

効果を生み出せば、やおうえるかむコモンズのネットワークが根付いていくと思う。

八尾市は文化振興の面で私の関係者を始め日本中から注目されつつあるまぢだと意識してもらえれば良い。

案件（2）やおうえるかむコモンズ推進会議の進捗報告について

事務局より資料4やおうえるかむコモンズ推進会議の進捗報告について説明。

●令和5年度やおうえるかむコモンズ推進会議の進捗状況

幹事会及び全体会、部会の開催について報告

●令和5年度事業について

①やおうえるかむコモンズロゴマークの決定について

・やおうえるかむコモンズの形成に向けて取り組む活動についてロゴマークを活用することで効果的に発信することを目的にやおうえるかむコモンズロゴマークの募集を行った。

・応募総数220点から第1回ロゴ選定部会にて3案に絞り、市民投票を実施し、第2回ロゴ選定部会にて各賞を決定。

・今後の活用について、やおうえるかむコモンズ推進会議委員が使用する名刺などへの掲示、やおうえるかむコモンズ主催イベントのチラシ、のぼり旗への掲載、その他やおうえるかむコモンズの形成に向けて取り組む活動など、効果が期待できる活用方法を検討。

②高校合同文化祭の開催

・基本計画に規定するリーディングプロジェクトの一つである「高校合同文化祭」の将来的な実施に向け、令和5年度は、「集まれ!!!アーティストのたまごたち」と題し、八尾市文化会館をはじめ市内4か所で、市内6つの高校による作品展示やパフォーマンスを行う。

・11月11日（土）から11月19日（日）の間、八尾市文化会館（プリズムホール）、シルキーホール、茶吉庵、地域共生空間「つながり」にて開催。

・参加高校は「金光八尾高校」「八尾高校」「八尾北高校」「八尾支援学校（高等部）」「八尾翠翔高校」「山本高校」

・部会の開催及び高校生との打ち合わせを実施するほか、各会場との調整を行った。

・合同パフォーマンスとして「書道パフォーマンス」を実施し、八尾市の木であるイチョウをベースにメッセージツリーを作成。

③まちかどライブクリエイションの開催

・八尾市内各地で開催される芸術文化による創造と交流のイベントと位置付け、多くの人が行き来するような会場で発表の場を提供し、週変わりでアーティストや一般市民及び団体が参加する。また、大阪・関西万博の500日前月間イベントとして、八尾市における万博の機運醸成に繋げる。

・11月26日（日）は龍華町西公園及びファミリーロード、12月10日（日）は近鉄八尾噴水広場及び茶吉庵（12月4日から10日まで作品展示も実施）、12月17日（日）はTSUTAYAリノアス八尾店及び八尾廃校SATODUKURI BASEにて開催。

・部会の開催、各会場や出演（店）者との調整や打合せを実施。

④やおうえるかむコモンズポータルサイトの構築・運営

・令和5年9月末でやおみせアートを閉鎖し、冬頃のポータルサイト公開に向け、現在作成中。

・芸術文化活動をしている方々をはじめ、芸術文化活動場所と活用可能なお店などへも登録案内を行っているが、登録が進まないことが現状。

・運用後、登録者数を増やしていく予定。

・イベント情報などを発信するとともに、助成金などの案内なども掲載していく予定。

A委員より⑤「八尾芸術文化フェスティバル（仮称）」の名称仮決定について説明。

●メインタイトル「八尾国際芸術祭2028」、サブタイトル「YAODINATE」に仮決定。

・まずメインタイトルを決め、サブタイトルは思いを込めたものをつけるという方向性のもと決定。

・わかりやすく、夢を大きくということで、メインタイトルが決まった。

・サブタイトルは、八尾とコーディネイト（coordinate）を掛け合わせた造語及び「（やっぱり）八尾でないと（あかんな）」という意味を持たせた。

- ・八尾を（アート）でコーディネートして八尾のまちを芸術文化で染め上げていくというイメージ。
 - ・本年から5年かけ、リーディングプロジェクトに取り組み、やおうえるかむコモンズを形成していき、トライアンドエラーを繰り返しながら、どんどん膨らませ、2028年に大きなイベントを八尾市各所で同時に打ち上げたい。
- さらに2028年からは日本だけでなく世界中に芸術といえば八尾、文化といえば八尾と皆さんにイメージしていただきながら、やおうえるかむコモンズ推進会議全体で取り組んでいきたい。
- また審議会の方でもわれわれの活動を検証していただき、ご意見等いただきたい。

会 長○やおうえるかむコモンズ推進会議が発足して1年ほど経つが、これだけの成果が上がっていることは素晴らしい。やおうえるかむコモンズのロゴに関しても注目を浴び応募総数が200点に上りシンボリックなものとなった。

また、高校合同文化祭も各校の垣根を越え八尾で一つに繋がっていき、他校を知ることは非常に良い場だと改めて感じる。まちかどライブクリエイションについては、場所の提供や出演者へのオファー、イベント内容の検討をはじめ、ご苦労が多かったと思うが、今回の開催を通じて面まではいかないまでも、線と線が繋がったのではないかと。

ポータルサイトの構築について、アーティストファイルが集まらないという現状をお聞きしたが八尾にはアーティストの方々がたくさんいらっしゃると思う。

事務局○ポータルサイトの内容が明確にならないと登録まで進まないと感じるから、開設後、実際のサイトを見てもらい登録案内を進めていこうと思う。

会 長○「八尾国際芸術祭2028」について、国際が付くと壮大である。

A委員○八尾市には外国人市民が数多くいらっしゃるため、その国々の芸術文化を発表する場、紹介する場も一つではないかと思う。

会 長○海外から招聘する場合、膨大な資金が必要になる。これから5年間あるため、外部資金をどう獲得するか検討するべき。内なる国際化として活用するのも一つだと思う。新長田エリアで手づくりの小規模な下町芸術祭を開催しているが、新長田は韓国籍の方やベトナム籍の方が多くいらっしゃり、そういった方々との交流を持っている。またNPO法人Dance Boxが国際的なネットワークを持っていることから、ダンサーをアジアやヨーロッパから招聘して公演を行っている。イベント名は下町だが、国際的な規模になってきている。

そういった前例もあることから、5年間の蓄積の中で規模感を検討していかなければならない。行政の計画で位置付けると束縛されるが、こういった事業体で取り組むのか検討しなければならない。下町芸術祭の実行委員を長い間担っているが、民間のNPOを中心とした実行委員会組織であるため、外部資金の多寡でイベント内容が左右されるため意外と取り組みやすい。ただ行政主導だと、なかなか伸縮自在には行かない。事務局として行政に入っていただくしかないが、組織体のあり方として、行政と相対的に自立した形の市民主体の推進会議としてどういった形が良いのか。下町芸術祭やBEPPU PROJECTを参考にすれば良い。

それでは、推進会議メンバーとして関わって来られた委員から感想や補足等お願いしたい。まずはロゴマーク選定委員のB委員よりお願いしたい。

B委員○「八尾国際芸術祭2028」と「国際」が付くと選定にあたって非常にプレッシャーを感じた。ビジョンをどのように表しているか、八尾の地域性が出ているかを加味すると、3案に絞るまで選定委員の中でも意見が割れた。われわれで選出した3案の中から、市民投票で選んでいただいたロゴマークを有効的に使っていきたい。

会 長○では「高校合同文化祭」についてA委員よりお願いしたい。

A委員○「高校合同文化祭」は今年で2年目になるが、昨年より高校生が主体的に動いてくださる機会が増えてきた。また各校の交流が昨年よりも活発になったと思う。彼らがより主体的になり、OBになっても実行委員として携わってくれるようになればという思いから「コモンズサポーター」をつくった。OBになった方が現役の高校生を指導してくれることを期待している。

昨年はプリズムホールで展示のみ行ったが、今年は高校生の発案により、展示

に加え合同パフォーマンスを行うことになった。グループディスカッションを通じて、高校生からたくさんのアイデアが出たため、それを取り入れることによって、やりがいが生まれたようで積極的な姿勢を感じた。

会 長○最後に「まちかどライブクリエイション」についてC委員よりお願いしたい。

C委員○「まちかどライブクリエイション」は今年はじめて実施するイベントである。やおうえるかむコモンズ推進会議のメンバーが出演者あるいはスタッフとして全員参加しようというコンセプトであるが、単に出演して終わるだけではなく、交流の場づくりのため、他のアーティストとともに来場者と一緒に楽器を奏でる舞台にしようとしている。またイベント開催に向けた部会の開催、各会場や出演(店)者との調整や打合せを現在行なっているが、八尾市民、八尾に縁のあるアーティストたちが推進会議メンバーとして新たに参加しはじめています。新たなネットワークが生まれはじめていますと感ずる。

会 長○副会長は国際芸術祭にたくさん関わってこられたことから、八尾にある資源や展開を踏まえ、これまでのご経験からアドバイスなどはあるか。

副会長○私は瀬戸内国際芸術祭が開催される高松市の条例制定や芸術振興、岡山芸術交流国際現代美術展、札幌国際芸術祭といった行政主導の都市計画やビジョンに位置づけられるような国際展に携わっている。

公金を使うことから、どのように市民へ波及していくかというパブリックプログラムとなっているが、まちかどライブクリエイションはそういったタイプの芸術祭とは異なる。

国際芸術祭は外部からアーティストを招聘し文化醸成がなされていく。先ほど内なる国際化という話が出たが、新しい展開だと思う反面、運営者が楽しむことも重要なものの、対象者をどこまで広げるのかという想定はある程度しておいたほうが良い。

「国際芸術祭」と聞けば外部から期待されることもある。文化行政、推進会議の中で指針を立てることが大切である。運営者側だけが盛り上がり、市民の方々は冷めてしまう場面が見受けられるが、対象者を広げることは難しいもののどのように担保するか、また事務局の体制をどこにつくるのか検討しなければならない。

また、ポータルサイトの構築について、アーティストにとって魅力的であるか、利益のあるものであれば登録が進むと思う。対象者と運営体制、利害の3点を念頭に置きながら、5年後の国際芸術祭に向けて外部的な支援を入れていくのか議論していく必要があると思う。

会 長○成功例や失敗例があるため、視察も必要だと思う。私の経験で言えば、神戸ビエンナーレは5回開催したが、外部には全く知られず、アート界隈からも取り上げられないまま終わってしまった。それを反省にし、2019年に新たな芸術祭として「アート・プロジェクト：TRANS-」を開催した。ドイツからグレゴール・シュナイダー氏とやなぎみわ氏を招聘したが、六甲ミーツ・アートのように集客は良くなかった。地道に計画立案し、いろいろなところからファンドレイジングするNPOベース開催の芸術祭であるが、上手くネットワークづくりできた例である。

どういったタイプの組織運営がやおうえるかむコモンズに相応しいのか分析し調査したほうが良い。今回が第一歩となるため、いろいろなパターンを調査し一番良い組織づくりを目指すのが良い。

D委員○「八尾国際芸術祭」は壮大すぎる。主催者側がいかにインターナショナルのマインドがあるかどうかにかかっている。八尾には在日外国人の方の組織がある。八尾では「八尾国際交流野遊祭」が開催されているが、そういった中に入り込んでいくことも大切である。個人的な活動で「大阪朝鮮歌舞団」をお呼びして披露していただいたことがあったが、政治的な問題も含まれるため交渉に苦労した。そういったノウハウを学ぶためにも「八尾国際交流野遊祭」をぜひ視察してほしい。

会 長○下町芸術祭でもベトナムの方が活躍されているため、先行事例として見ると良い。

案件(3)事業視察について

事務局より資料5事業視察について説明。

・各委員視察のうえ、審議会委員としての観点でアンケートの回答を依頼。

会 長○委員のみなさまには、ぜひ視察をお願いしたい。その他、ご質問はないか。

E委員○ロゴについて、商標登録はされるのか。

事務局○現時点では登録する予定はない。

E委員○類似したロゴがないか調査は行ったのか。

事務局○今のところ、そういったロゴは見受けられない。

5. その他

事務局○本日の会議の内容についてホームページへの掲載を予定しているため、各委員へ内容の確認を依頼。

6. 閉会

(以上)